



私が生まれ育った田舎の風景が残る川場村。老朽化により令和4年着工を目標に、村役場の建て替えが行われることが決定した。

今日の多くの都道府県や都市部の庁舎建築は建築家により、市民に開かれた明るい庁舎へと改変されてきている。一方で地方地域の庁舎建築は均質化・画一化された旧態依然のまま使われ続けている。行政自体のあり方が変化してきている中、これからの地方地域における庁舎像とは何かを模索する必要があると考えた。

thema

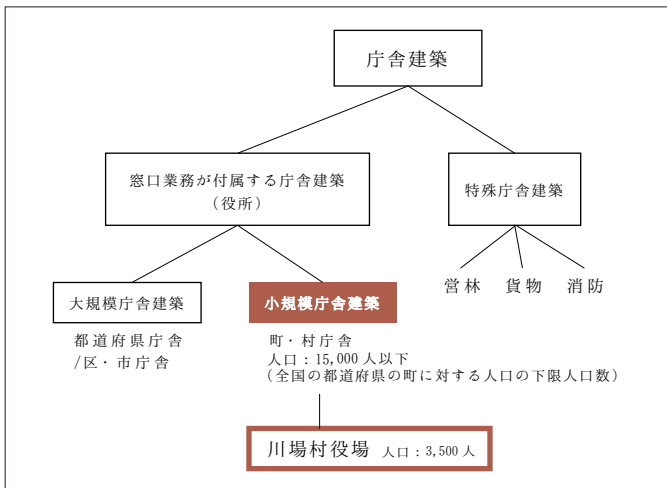
地方地域における庁舎像の再考



戦後の建設ラッシュから40年経ち、多くの庁舎建築が建て替えや大規模改修を迫られている今、公共性や地域性だけでなく、社会の変化や現代の社会問題に対してこれからの地方庁舎は建築・空間・組織としてどうあるべきかを再考することが目的。

Reserch Target

小規模庁舎建築を対象とする



庁舎建築のうち、都道府県庁舎・区庁舎・市庁舎を大規模庁舎建築、町役場・村役場を小規模庁舎建築と定義する。このうち、本研究では、最終提案である川場村役場と同規模である小規模庁舎建築を分析対象とする。

Reserch no.1

庁舎建築の建築的変遷の分析

今日の事務的な機能性を追求した所謂ハコモノ行政建築が庁舎建築の変遷の中でどのような位置付けにあり、なぜ全国的に反映していったのかを庁舎建築の変遷の中で明確にする。また、これからの庁舎建築がどうあるべきかを分析を行なう。

変遷一つの年表としてまとめる。年代、行政の変化/庁舎建築の流れ、意匠的变化、平面構成の変化の4つ軸によって全体として現代までのどのように変化してきたのかをまとめることで、庁舎建築の変遷の特徴、傾向を分析し、これからの庁舎建築を考察する。

分析の時代分け

明治期以前
久米浜代官所



明治期
(1868-1912)
兵庫県庁舎



大正期～昭和初期
(1912-1937)
福島県庁舎



戦後～2000年
(1945～2000)
埼玉県庁舎



4つの軸

- 1 年代と建て替えフェーズ
- 2 行政の変化と庁舎建築の流れ
- 3 意匠的变化
- 4 平面構成の変化

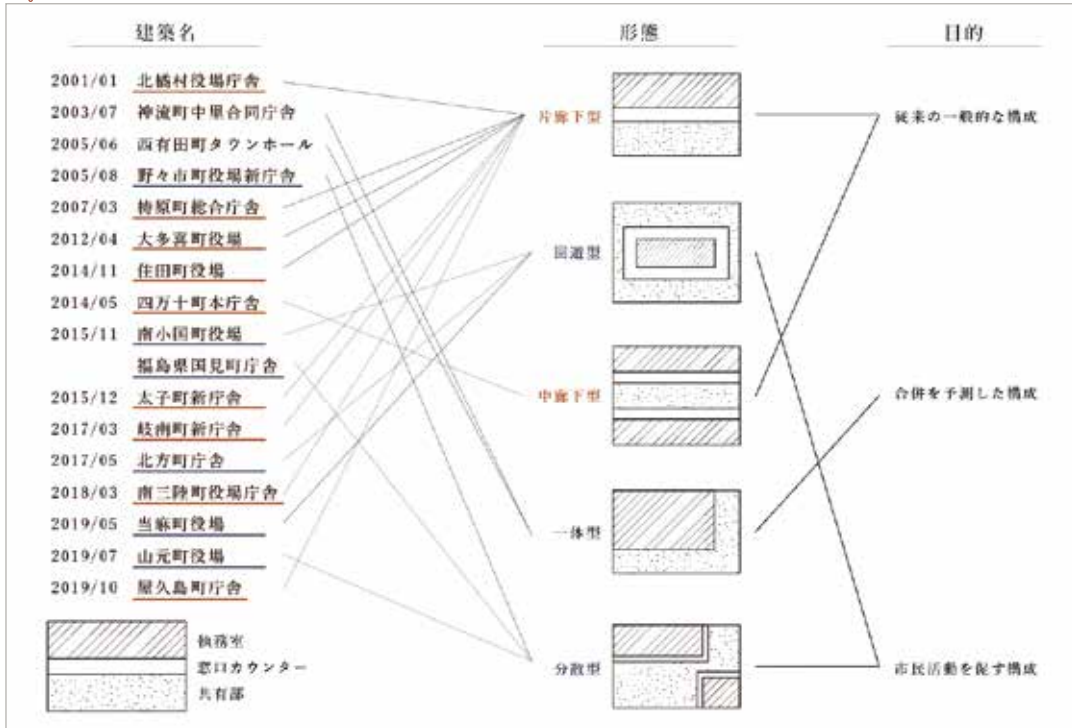
小規模庁舎建築の再考
-群馬県川場村役場の提案-



雑誌「新建築」に掲載されている2000年から現在における庁舎建築から小規模庁舎建築の定義内に含まれる庁舎建築を対象とする。



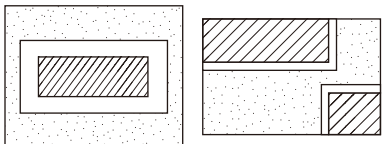
執務構成の傾向



Result

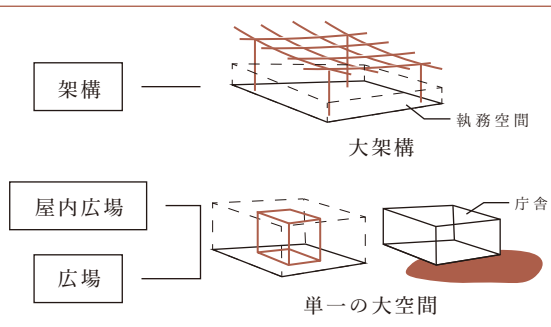
執務構成

回遊型・分散型

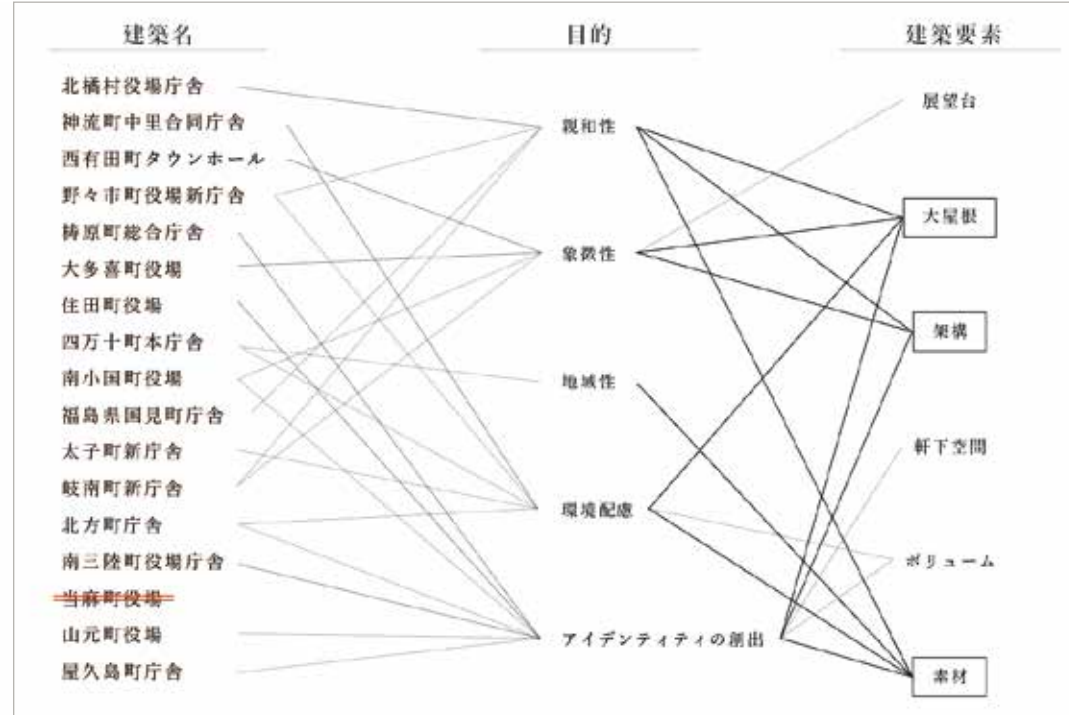


近年の新たな平面構成、回遊型は執務空間を回遊することで積極的な市民活動を促している。分散型は市民の動線を減らすような動線計画を行い、開放な空間を作り出している。

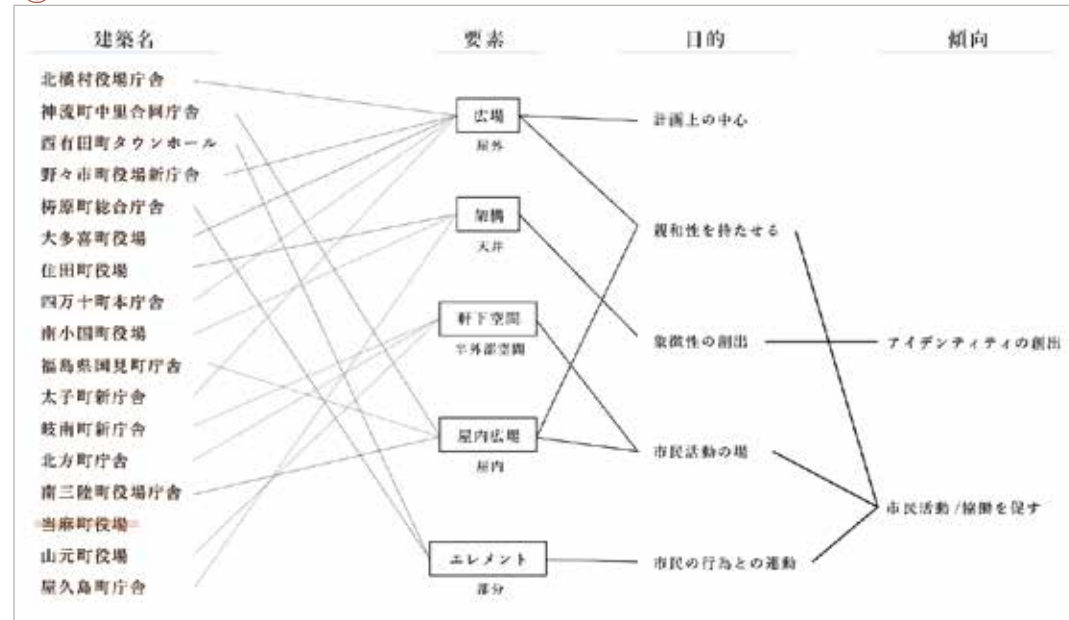
共同体意識を表出させる要素



2 意匠計画の傾向



3 共同体意識を表出させる要素の傾向



第1期



竣工年：昭和48年10月31日
 構造：鉄筋コンクリート造
 階数：地下1階(1部)、地上2階
 敷地面積：1,800㎡

機能：1階(役場庁舎)
 …事務室・会議室・村長応接室・議場・住民相談室・ふるさとサロン・公使室等
 2階(山村開発センター)
 …老人ホーム・食堂・娯楽室・図書室・村民ホール・農林業技術研究室等

第2期



平面図の作成年：不明
 (改修工事に際して作成した平面図)

機能：1階(役場庁舎)
 …事務室・会議室・村長室・村民室・公使室・等
 2階(役場庁舎)
 …会議室・大集会場・議場・議員控室・相談室・図書室等

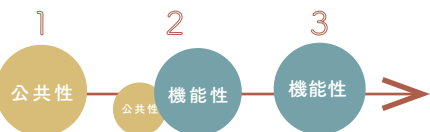
第3期



平面図の作成年：平成12年5月

機能：1階(役場庁舎)
 …事務室・接待室・村長室・村民室・公使室・等
 2階(役場庁舎)
 …会議室・大会議室・議場・議員控室・相談室等

変わるもの 公共空間の変動



建設当初には2階部分の大半が公共空間を有していた。しかし、機能の肥大化、狭隘化によってそれぞれの機能は単体の施設として役場の周辺に分散して建設されていった。平成12年の第2期においては公共空間が行政業務の機能(会議室等)に変更されている。現在の役場においては完全に公共空間が失われている。

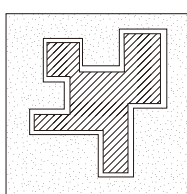
変わらないもの 公使室



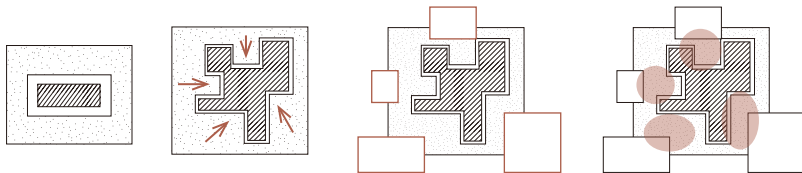
「公使室」とは、公使と呼ばれる役職を持ったある夫婦が役場の中で住んでいる部屋である。「宿直室」とは異なり、実施に夫婦が住んでいる空間である。公使の彼らは、役場の職員をサポートする立場である。彼らは表に出る存在ではないので、彼らの存在を知っている村民は少ない。

Proposal

「雁行型」の執務構成を活かした川場村役場



雁行型平面



回遊型平面 ▶ 執務空間を窪ませる ▶ 公共機能を集約化 ▶ 小さな中心で繋ぐ

Configuration plan

様々な事柄と結びつきが強い川場村に関わるヒト・モノ・コトなど様々な事象と役場の機能を『雁行型』の執務構成で絡めることで小規模庁舎建築のあり方とプログラムを模索する。



Diagram

課と公共機能の結びつき

- ・総務課
- ・住民課
- ・健康福祉課
- ・むらづくり振興課
- ・田園整備課

役場の課と町での様々な事象は強く結びついていて、課と町で起こっていることを繋げることで小さな自治体の力を強める。

公共機能の集約化

基本的な庁舎機能

+

- 村の大広間(文化会館/避難所)
- 図書館
- 教育委員会
- 食堂
- 防災支援拠点施設
- 交番
- 展望台
- 村の案内所
- バス停
- 保健所
- ピオトープ
- 郵便分局

執務空間に接するように公共機能を接合させる。

小さな中心によって繋ぐ

集約した公共機能や多目的室を小さな中心(共有部)で繋ぐことでお互いの活動が滲み出し、協働や新たな繋がりを生み出すきっかけになる。



